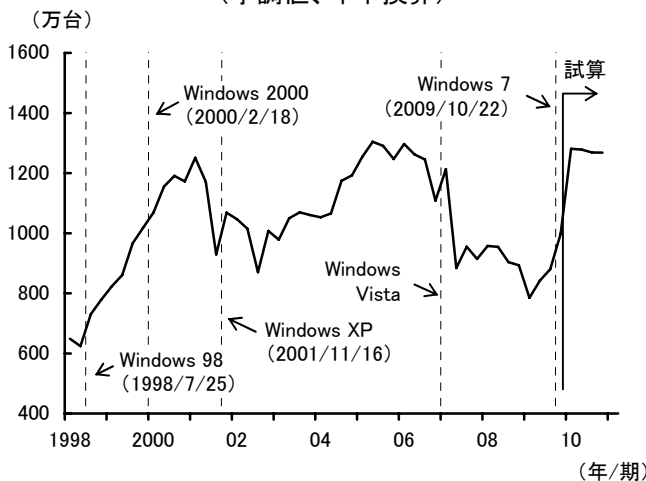


買い替え需要拡大が期待されるパソコン市場

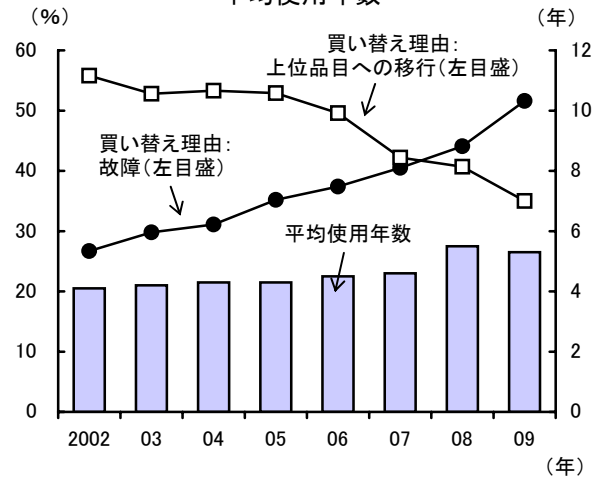
- (1) 2009年10～12月期のパソコン出荷台数は、6 四半期ぶりに前年同期比プラスに転じた見込み。出荷台数持ち直しの要因として、買い替え需要の高まりを指摘可能。
- (2) これまでの出荷動向を踏まえると、現在は2005～06年に購入されたパソコンの買い替え時期に差しかかっていると判断（図表1）。2008年以降のパソコンの平均使用年数の長期化や、故障による買い替えの増加を勘案すると（図表2）、潜在的な買い替え需要は相当高まっている可能性。加えて、Windows 7に対する期待が今後のパソコン購入を後押しする公算。
- (3) 今後1年間で平均使用年数を4.5年に低下させるような買い替え行動が起きるとの前提で試算すると、2010年のパソコン出荷台数は、2009年対比398万台増の1,274万台となる見込み（前掲図表1）。平均単価を10万円とすれば、前年比3,975億円の増加に。これはGDPを0.1%押し上げるインパクト。
- (4) 加えて、パソコンの需要増加に伴い、パソコンの部品となる半導体素子・集積回路や電子部品、販売経路となる商業などを中心に、4,486億円の生産波及効果が期待可能（図表3）。これらの結果、2010年の鉱工業生産指数は、1.25%押し上げられる見通し（図表4）。

（図表1）パソコンの国内出荷台数の推移
（季調値、年率換算）



（資料）電子情報技術産業協会「パーソナルコンピュータ国内出荷実績」をもとに日本総合研究所作成
（注）2009年10～12月期は11月までの実績をもとにした推計値。

（図表2）パソコンの買い替え理由と平均使用年数



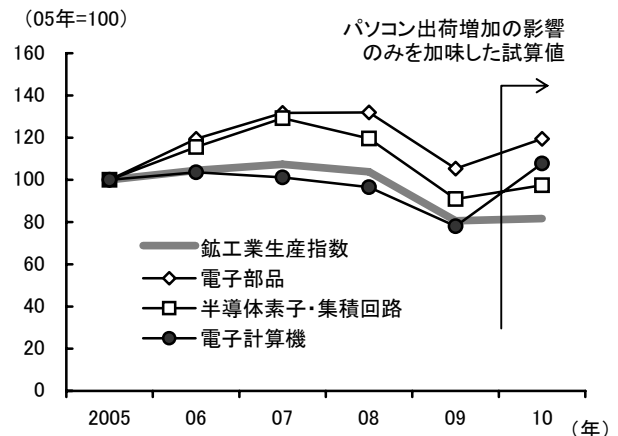
（資料）内閣府「消費動向調査」

（図表3）パソコン需要増加の生産波及効果(2010年)

部門名	波及効果 (億円)
電子計算機・同付属装置	3,975
プラスチック製品	149
半導体素子・集積回路	278
その他の電子部品	1,121
商業	405
金融・保険	172
情報サービス	108
研究開発等	407
その他の対事業所サービス	178
その他	1,668
合計	4,486

（資料）総務省「2005年産業連関表」をもとに日本総合研究所作成

（図表4）鉱工業生産指数の推移



（資料）経済産業省「鉱工業指数」、「生産動態統計」等を
もとに日本総合研究所作成